

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島南小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

*この結果につきましては、本校ホームページに公開しています。

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

・国語の平均正答率は全国より高く、全体的に高い定着が見られます。特に「書くこと」について、図表などを用いたり、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することがよくできています。一方で「知識及び技能」について、文中で正しい漢字を選択することはできませんが、異口同音の漢字を書き表すことについては課題が見られます。

・算数の平均正答率は全国よりやや低く、少し課題が見られます。特に「図形」について、「台形の図形の意味や性質の理解、図形の角の大きさを理解すること」に弱い傾向が見られました。また、「変化と関係」について、求め方を式や言葉を用いて記述することや、「数や計算」について、数直線上の単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述したり捉えたりすることにも課題が見られました。

・理科の平均正答率は全国よりやや低く、少し課題が見られます。特に「エネルギー」「生命」を柱とする領域について弱い傾向が見られました。「金属・電気など身近な物質の性質について概念的に理解し表現すること」に課題が見られます。また「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見出し、表現すること」にも課題が見られました。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・よい傾向がみとめられる項目

「朝食を毎日食べていますか」「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて楽しみながら学習をすすめることができる」「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について高い数値を示しています。

・課題となる項目

「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」「学校の授業以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語の学習では、日頃の学習や生活の中で、漢字を幅広く読んだり書いたりすることに意識をもち、取り組んでいきます。
- ・「図形」の学習では、図形の特徴や角の大きさを実際に操作して考えられるような活動を取り入れていきます。
- ・理科の学習では、身近な現象や日常生活と学習内容のつながり分かりやすく捉えられるようにして、興味関心を高め、学びの意義を実感できるように工夫していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・学校の授業時間以外に日頃から家庭学習の習慣をつけらるよう、お声かけをお願いします。
- ・お子さんの音読を聞いたり、世間で話題となっている内容について会話をしたりしてください。